

(福祉) 大門小学校 6年

あったかハートを広げよう

9月～12月(30時間)

1 ねらい

- ・福祉実践教室から、聴覚障がい者の気持ちを知り、コミュニケーションの手段の中の手話について知ることができる。
- ・手話についてもっと知るために、学芸会「遙かなる甲子園」で手話を交えた演技を、聴覚障がい者の気持ちや手話についてさらに考えを深めることができる。
- ・自分が知ったことや考えたことを踏まえ、聴覚障がい者の事をもっと知ってもらうために、発表することができる。
- ・障がいのある人たちにとって住みよい街とは何かを考えることができる。

2 実践の概要

9月	福祉(あったかハート)ってなんだろう	<ul style="list-style-type: none">・福祉とは何かを考える。・本やインターネットで福祉について調べる。
	福祉実践教室で聴覚障がい者のことを知ろう	<ul style="list-style-type: none">・聴覚障がい者から話を聞く。・手話について体験する。
10月	手話について知ろう	<ul style="list-style-type: none">・手話について調べる。
	学芸会で手話を交えて演じよう	<ul style="list-style-type: none">・手話について、本やインターネットで調べたり、それでも分からない手話があれば、社会福祉会館に聞き行ったりする。(手話サークル)・学芸会で手話を交えて「遙かなる甲子園」を演じる。
11月	障がい者にとって住みよい街について考えよう	<ul style="list-style-type: none">・どういうことが障がい者が困っているのか調べる。
	ユニバーサルデザインを調べよう	<ul style="list-style-type: none">・ユニバーサルデザインが身の回りで使われていることを知る。・ユニバーサルデザインはみんなが住みよくなるためのものだと知る。
12月	福祉(あったかハート)についてまとめよう	<ul style="list-style-type: none">・自分たちが今まで気付かなかった不便なことを見つけ、どの人にも住みよい街づくりとは何かを考える。

(1) 実際に聴覚障がい者の話を聞き、コミュニケーションの方法の1つ、手話について知る

普段の生活でも音が聞こえず困ることは多いが、一番怖いのは、「火事など火災が起きた時」ということを知る。火事や災害が起きた時に、耳の不自由な人に情報を知らせるしくみづくり

が大切だと、子供たちの感想に書いてあった。「もっと手話を知りたい。手話を使って話したい。」など、聴覚障がい者の方から直接聞くことで、強く興味を持つきっかけになったのではないかと考える。

(2) 手話を使った学芸会「遙かなる甲子園」を行うため、手話を習いに行く

インターネットや本で調べても分からない手話を、手話サークルをしている方に聞きに行く機会を作った。学芸会で口(発声)

を動かしながら手を動かすことは、とても難しい。同じ手の動きでも、まったく違う意味にとられてしまうこともあると教えてもらった。実際に教えてもらった手話をビデオに撮り、何回も見て覚えた。自分たちで自主的に調べたため、習得する時間が早かった。

(3) 教えてもらった手話や聴覚障がい者の気持ちを広めるため、他のクラスに伝える

クラスを3つにグループ分けし、他のクラスに伝える発表の場を設定した。聴覚障がい者は「耳が聞こえなくて不便だが、決して不幸ではないということ」をキーワードにし、聴覚障がい者のコミュニケーションの手段などを実際に言葉にして周りの人に伝えた。感想には、手話を一緒にやってくれたり、質問してくれてうれしかったと書いてあった。

(4) 住みよい街づくりについて考え、ユニバーサルデザインについて調べる

点滅信号や避難経路のマークなど、身の回りにはユニバーサルデザインがたくさんあることを知った。調べたことをグループでまとめ、クラスで発表した。多い子では、10個以上もユニバーサルデザインを見つけることができた。

3 実践を振り返って

障がいのある人はかわいそうだと思っていたけど、実際聴覚障がい者から、不便であるけれど、不幸ではないと聞き、子どもたちの障害に対する考えが変わったように思う。手話を使った学芸会では、手話の難しさも知ることができた。そして、街中で「昨日、すし屋に行ったら隣の人たちが手話を使っていたよ。」と話してくれ、子どもたちの意識の中に障がい者があることが分かった。

手話を学んでの感想



手話を教え合うB男



手話を交えた学芸会



他のクラスで手話を説明するC子

